

新潟・船戸桜田遺跡

所在地 新潟県北蒲原郡中条町船戸

調査期間 第二次調査 一九九九年(平11)八月~一二月

発掘機関 中条町教育委員会

調査担当者 吉村光彦

遺跡の種類 集落跡・祭祀跡

遺跡の年代 六世紀、八世紀~九世紀

遺跡及び木簡出土遺構の概要

船戸桜田遺跡は、塩津潟に流れ込む船戸川の流域に位置する集落跡である。本誌第二号に報告した船戸川崎遺跡の約一・五km上流

にあたり、同時期に存在していたと考えられる。調査区の南方に川が西流しており、その右岸に集落が位置していた。

(3) この川からは、木簡⁽¹⁾・⁽²⁾のほか、須恵器・土師器・木製品などの多くの遺物が出土している。



(中条)

墨書き土器としては、須恵器には「村」五点、「廣」三点、「古」二点など計一三点以上、土師器には「木」三点、「王」一点以上がある。また漆書き須恵器も一点認められた。さらに川底から人面墨書き土師器小甕が出土し、周囲で土錐二点と輪羽口が発見されている。木製品としては、六八点もの盤が出土しており(川以外の出土を含む)、「千」の焼印一点と「大」の刻書が認められた。また、蓋四点及び稜鉢も出土しており、注目される。時期的には、八世紀後半から九世紀が主体となる。

これらからみて、本地点においても船戸川崎遺跡・中倉遺跡と同じく律令祭祀が行なわれていたと考えられよう。

なお木簡⁽⁴⁾は川ではなく、溝の上層より出土している。

8 木簡の釈文・内容

河川



333×26×5 051

(2) 「合糀五石五斗

(262)×(30)×9 081



154×25×8 011

(4) 「麻綱マ宿奈万呂」

165×20×8 051



(1)



(2)

(いずれも赤外線画像)

なお、木簡の釈読及び内容については、新潟大学の小林昌二氏・
相沢央氏のご教示によった。

(水澤幸一)



(3)表

(4)

(1)は、下端を尖らせる長い木簡で、上半に墨痕が認められるが、
墨が薄いため判読できない。下部に折ろうとした痕跡がある。
(2)は、木簡の中位から下方に墨書している。下端及び左側面を欠

損している。厚さは、左端が4mm右端で9mmと、一定しない。

(3)は、上方から縦に切り込みを入れ、一部を折りとっている。

(4)は、完形の付札木簡である。ウズ名「麻統部」は、越後では初
見である。下方に行くにしたがい、薄くなる。向かって左中位及び
下方に木釘を打ち込んだ痕跡があり、中位には木釘が遺存している。
前面から裏面中央付近へと斜めに打ち込んでおり、木製品に打ち付
けたものと思われる。